
DODO vol.39



2023.10~2024.10

目次

1. 幹事長挨拶	p.02
2. 26期代活動報告	p.03
企画経理局	p.06
渉外局	p.09
運営広報局	p.12
3. 26期代会計報告	p.14
4. 27期代活動方針	p.17
5. 各企画活動報告	p.19
やまなび	p.20
ecoSMILE	p.23
うみさんぽ	p.28
REC	p.34
Re-Cover	p.37
えこのわぐま	p.41
えこねくすと	p.43
Precious Plastic Waseda	p.47
6. 全体活動報告	p.49
7. 編集者一覧	p.53

01 | 幹事長挨拶

27期代幹事長 いとう ゆうま
伊藤 優真



[Profile]

大学・学部：早稲田大学 創造理工学部

学年：2年生

所属企画：やまなび・ecoSMILE・うみさんぽ・Re-Cover

初めまして、27期代幹事長に就任いたしました伊藤優真と申します。

平素より私たちの活動を応援いただき、皆様の多大なるご支援のおかげで27期になる今年度も活動を継続できております。心より感謝申し上げます。また、そのような伝統ある環境ロドリゲスの幹事長を務めるに際しまして、大きな責任を感じますが未来につながる新たな1歩を踏み出せるように尽力して参ります。

環境ロドリゲスの活動理念として『学生が主体となって、多様なアプローチから環境問題の解決に貢献する』ことを掲げております。近年、「えこねくすと」や「Precious Plastic Waseda」という企画が発足しているように、個々が持つ活動への希望に制限をかけることのない環境作りを意識し、新たな視点からのアプローチを行いやすくすることで、発見や創造の可能性を広げることができるように心がけていきます。また、環境ロドリゲスとして、それぞれのキャリアを築く足掛かりとなる経験ができるような組織体制を目指していく所存です。

現在では、コロナ禍が明けることで増加した、対面で実施するイベントや積極的な新入生の勧誘のおかげで私が入った頃よりもより大きな組織になっていると感じております。環境ロドリゲスは幅広く7つの企画に分かれて多くの活動を行っているため、それぞれが違う興味を持って入会して頂いています。そのような状況に気後れすることなく、機を逸せず内部充実等の変化への挑戦を恐れず、さらなる発展を図っていきます。しかし、さまざまなことに興味を持つことはたいへん重要ではありますが、「環境問題の解決」という根本にある軸をずらすことなく、初心を忘れずに日々の活動を継続して参ります。

最後に、環境ロドリゲスのメンバーはとても人柄が良く、お互いに尊敬することができる関係を築いております。私自身、依存していると思えるくらい大きな存在となっていると思います。これからも環境ロドリゲスをそのような居心地の良い場所となるように持続して参ります。

02 | 26期代活動報告

1. 活動方針 Goals

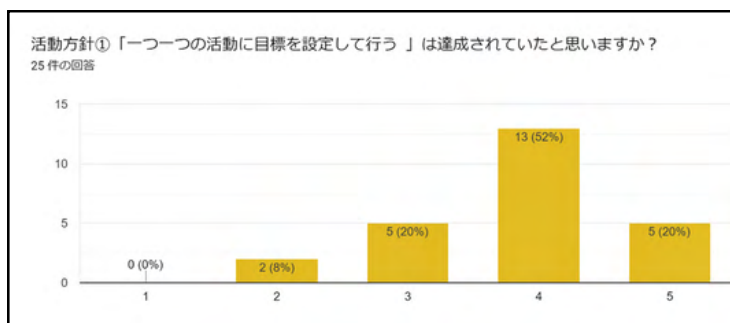
26期代幹事は、幹事内での話し合いと昨年度のアンケート結果をもとに、「活動の幅を広げ組織を大きくしながら、メンバーの意見を取り入れ、内部・外部両方からみた環境ロドリゲスの成長に貢献する」という目標を設定しました。また、上の目標をもとに、環境ロドリゲスの課題もふまえて、以下の3つの運営方針を定めました。

- 1：目標をもって活動を行う
- 2：メンバーが活動しやすい場を提供する
- 3：質の高い外部連携を行う

2. 活動方針の背景・振り返り Review

2-1 「目標をもって活動を行う」について

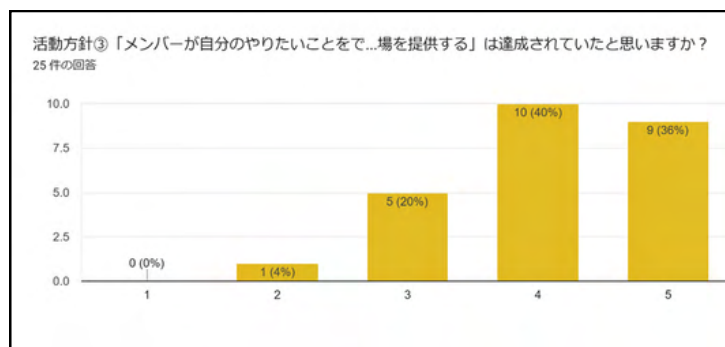
この方針を設定した背景には、メンバーの参加意欲低下という課題がありました。そのため、特に今まであまり活動に参加したことのないメンバーの参加意欲を高めるような施策を展開する必要があると考えました。そこで26期代では、それぞれの活動に参加することに意義を見出せるように、イベントでの目標・目的の設定とメンバーへの共有を積極的に実施してきました。例えば、2024年度の新歓活動では、「コアメン21人の獲得」「楽しさと居心地の良さの提供」、今年度の新歓合宿では、「新たに入ってくる28期を暖かく受け入れ、交流を深めよう」「現役メンバー同士の仲をさらに深めよう」などの目標・目的を設定し、メンバーへの共有を行いました。この目標の達成度に関するアンケートは以下の通りです。



5段階で評価してもらったところ、平均値は3.84となりました。この結果から、概ね達成できているものの、改善の余地があると感じました。原因としては、そもそも運営方針自体を知らないメンバーが多かったため、幹事が統括をしていたイベントに関しては比較的目標・目的の共有ができていたものの、それ以外のメンバーへの運営方針の意識付け、目的意識の発信が不足していたと考えます。

2-2 「メンバーが活動しやすい場を提供する」について

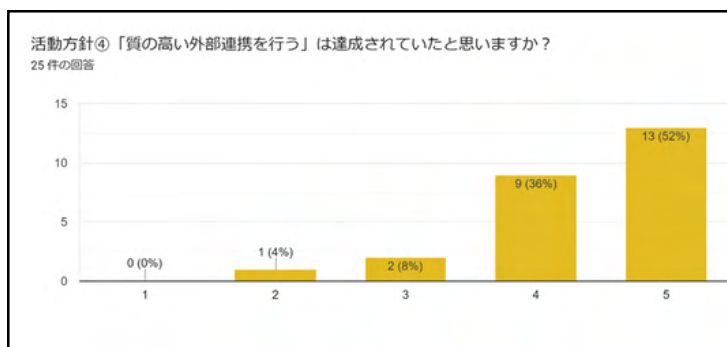
この方針を設定した背景には、帰属意識の低下という課題がありました。現在の環境ロドリゲスでは、活動に参加してくれるメンバーが固定化しているため、サークルの発展のためにはより多くのメンバーに参加してもらうことが重要であると考えました。そこで、メンバーの意見を取り入れるための恒常的なアンケートの設置、適切な仕事の分担、活動の透明性の向上を意識して運営を行いました。この目標の達成度に関するアンケートは以下の通りです。



5段階で評価してもらったところ、平均値は4.08でした。この結果から、この方針についてはある程度達成できているのではないかと感じました。原因としては、執行部を設立したことでメンバーの裁量権が拡大したことが大きいのではないかと考えています。ただこの結果を見る限り、メンバーの目線ではまだ達成できていない部分もあるのではないかと思います。

2-3 「質の高い外部連携を行う」について

この方針を設定した背景には、イベントにかける準備時間の少なさという課題がありました。多くのイベントが同時期にあると一つ一つのイベントの質を高めることが困難であり、質を重視した外部連携の必要性を感じました。そこで、イベントが重なる時期の役割分担の徹底、イベント時期の考慮、外部連携における意義の再確認を行いました。この目標の達成度に関するアンケートは以下の通りです。



今まで同様5段階で評価してもらったところ、平均値は4.36となり、3つの方針の中で最も高い数値となりました。渉外局を中心に、今まで課題となっていたイベント時期や内容、役割分担の考慮といった課題が達成できていたのではないかと思います。また今年はTBSのイベントなど規模の大きいイベントに参加することができ、環境ロドリゲスの成長につなげることができたと感じています。

アンケートでは上記の結果以外にも、ボランティア面の充実度、コアメンの獲得、適切な仕事分担などについて意見をいただきました。全体を通して、幹事として達成できた部分もありますがまだまだ改善の余地はあったと感じたので、27期代幹事には26期代の反省を活かして運営を行ってほしいと思います。これからの環境ロドリゲスも心から応援しています！

3. 組織体制 Management

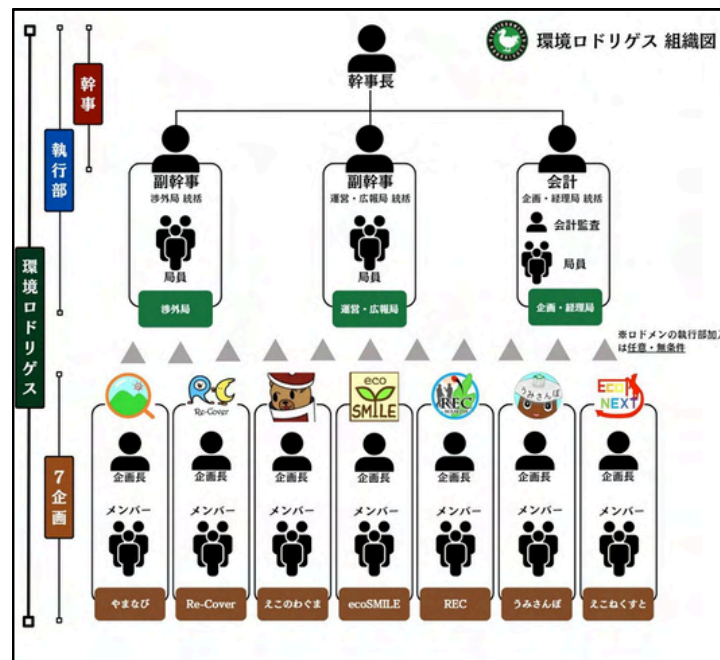
26期代では、25期代までの領域組織を廃止し、新たに運営広報局・企画経理局・渉外局の3局からなる執行部を設立しました。

設立背景は以下の通りです。

- ・従来の「領域」は幹事とは別の独立した組織だったため、幹事との連携をとることが難しかった。
- ・「領域」の業務内容は主に総務、広報だったが、今まで幹事が担当していた渉外、会計についても、円滑に業務を行うためにはより多くの人手が要ると感じた。
- ・幹事の仕事の透明化を図りたかった。
- ・（企画局に関して）ロド内の交流を活発化させるため、定期的に内部イベントを開催できる素地を整えたいと感じた。
- ・（渉外局に関して）幹事以外でも外部連携に興味のある人が渉外対応を行える機会を作りたいと思った。スケジュールやプロジェクトの進捗、資料共有のため、1組織として確立させたいと感じた。

また、26期代から会計監査を役職として設置し、管理の強化を図りました。

以上をふまえた26期代組織体制図は以下の通りです。



4.活動報告 Report

組織体制の章でも前述したとおり、26期代では、従来幹事が行っていた企画・会計・渉外を主に各局で行ったため、この章では26期代幹事として関わった活動・施策のみに言及します。

・TimeTreeの導入

26期代では、環境ロドリゲスの全体LINEの煩雑化、イベント日程のダブルブッキングという課題を解消するため、連絡日程、連絡内容、イベント日程を共有できるTimeTreeというツールを導入しました。これにより、全体LINEに一日に何件も連絡が来て見逃してしまうということがなくなり、イベント日程についても各組織間で把握や調整がしやすくなりました。

・目安箱の設置

メンバーの意見を積極的に取り入れるため、環境ロドリゲスの全体LINEにてGoogleフォームで意見を投稿できる目安箱を設置しました。また実際に意見箱に寄せられた意見をもとに運営広報局などで話し合いを行い、部室に荷物入れを採用しました。

・会計システムの刷新（会計）

詳しくは会計報告にて説明します。

・準企画の承認

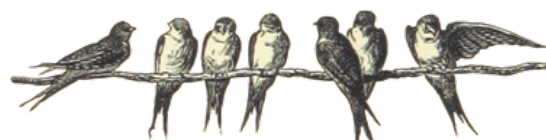
「環境×プラスチック」をテーマとする、Precious Plastic Wasedaという準企画の承認を行いました。この準企画は現在28期が中心となって、商品の製作・販売やワークショップへの出展を行っています。

・全体会実施の決定

あるメンバーから、環境ロドリゲスの会則について、現在では適用されていないものが多いという意見をいただき、幹事で検討した結果、規約変更について話し合うために全体会を実施することを決定しました。全体会は8月に行い、統括は運営広報局が担当しました。今回の全体会の結果、規約について、「会費を3000円に変更」「副幹事長の人数を2名に固定」「領域の記述の削除」「執行部、会計の記述の追加」「企画間交流会と全体会に分けて記述」となりました。

・ロド座談会の実施

メンバーの帰属意識強化のため、交流と相互理解を目的とした座談会を8月に実施しました。



企画経理局 Event Planning & Accounting

1. 活動理念 Philosophy

「ロドを、楽しいサークルに。」

2. 26期代の方針 Policy

環境ロドリゲスは、環境保全団体である前に、学生が集うサークルです。サークルは、学生にとって授業やバイトを頑張るモチベーションとなり、新しい発見や学び、そして最高の仲間とかけがえのない思い出を作る場であるべきです。以前から内外に「お堅くて真面目なイメージ」が強く定着していたこのサークルを、大学生らしい最高に楽しいサークルにしたいという考えのもと、初代企画経理局が活動を開始しました。

今期の活動方針を端的にまとめると、以下の3点です。

- ・ロドを大学生らしいサークルにする
- ・交流の機会を増やし、友達を作る場を提供する
- ・一生に一度の思い出を作ってもらう

この方針に基づき、全体合宿、新歓企画、企画間交流会などの企画を行い、各企画の会計も担当しました。

1 冬合宿2024

📅 2024年2月13日～15日 📍 日光・那須 👥 18名

○背景・目的

25期引退後、初の全体イベントとして企画した冬合宿です。春に新しく28期を迎える前に、26期・27期の交流を深め、絆を強めるとともに、最高の思い出を作り、新たに入る1年生に「このサークル楽しそうだ!」と思ってもらうことを目的としました。行事続きでストレスが溜まっていたメンバーが多いため、癒しの場として、大自然に囲まれ、幾千万の歴史が眠る日光・那須エリアを選びました。

○内容

全日程、観光中心でした。ややハードスケジュールではありましたが、参加したメンバーは狙い通り、濃密な時間を過ごし、絆を深め合うことができました。振り返ってみると、この冬合宿をきっかけに、26期・27期は非常に親密になったと感じます。



2 新歓合宿2024

📅 2024年6月29日～30日 📍 河口湖 山中湖 👥 50名

○背景・目的

新しく入会した28期を暖かく迎え、このサークルでの居場所を見つけてもらうことを目的としました。スローガン「はじめてのキミと、あらためてキミと」を掲げ、新歓期で築かれた先輩後輩の縦のつながりを強化し、さらに同期同士の横のつながりを深めることを目標に企画しました。

○内容

富士山の麓、河口湖・山中湖を舞台に、初日のクイズ大会やオリエンテーリング、2日目の体育祭を同じチームで競い合い、総合得点で優勝を目指すバトル形式で交流を深めました。大規模なイベントとなりましたが、局員の協力と緻密な計画が功を奏し、無事に成功しました。チームが異なるメンバーとも、バーベキューや花火大会、部屋割りなどで交流の機会を設け、縦横のつながりがしっかりと築かれたのではないかと思います。



3 夏合宿2024

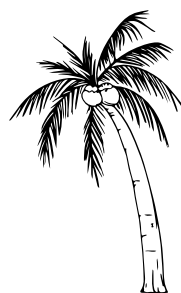
📅 2024年9月5日～7日 📍 熱海・伊豆 👥 13名

○背景・目的

26期最後の全体合宿、26期代最後の企画間交流会として夏合宿を企画しました。大学生らしい夏休みとして海が臨める熱海・伊豆エリアを選びました。

○内容

完全に観光の日程です。ハードスケジュールであった冬合宿の反省を生かし、ゆったりとより長くメンバーと接する時間を作ることを心がけました。海で泳いだり、カードゲームをしたり、肝試しをしたりと思い思いの時間を過ごし、26期代最後の合宿を素敵な思い出にできたと思います。



4 その他

その他、余白の関係で紹介しきれなかったイベントを以下に挙げます。

- ・新歓BBQ [2024.4.21 / 40名 / 東京都墨田区]
- ・新歓ハイキング [2024.5.12 / 23名 / 東京都高尾山]
- ・ロド内プレゼンコンテスト [2024.6.21 / 20名程度 / 学生会館]
- ・ロド座談会 [2024.8.05 / 15名程度 / 学生会館]



5. 27期代の展望

長期休みに冬合宿・夏合宿を企画し、2ヶ月に一回のペースで企画間交流会を開催します。

レクリエーションや交流に重きを置いたイベントを充実させることで環境ロドリゲスのサークルとしての側面を強化します。また経理に関しては、会計監査と協力し、活動参加に応じてできるだけ多くの人に平等に還元されるよう、資金を運用します。

渉外局 Public Relations

1. 活動方針 Goals

方針は定めず、自由に活動を行っていました。

2. 活動方針の背景・振り返り Review

25期代から徐々に外部の方々と関わる機会が多くなり、26期代が近づくにつれて機会が急増したことから、渉外専門の部署をつくる必要性を感じて、設立に至りました。設立方針・役職等が定まっておらず、役割分担やタスクの配分等、全て手探り状態での運営でした。そのため、トップダウン型の意思決定も多く、タスクの配分も適切に行えませんでした。局員各自のコミット具合にも差がありましたが、全メンバーが無理のないペースで参加してくれました。少しでも関わってくださったことに感謝です。

1 公開ロドゼミ

2024年5月6日 学生会館 16名

○背景・目的

環境ロドリゲスの活動に誇りと自信を持って活動してほしいという想いから開催。

○内容

様々な側面からロドの活動の社会的意義について分析し、それをセミナー形式のイベントとして開催しました。このイベントでは、ロド以外の方も参加してくださり、外部発信の一步目を踏み出せたイベントになったと信じています。



2

地球を笑顔にする広場

2024年5月5日 赤坂サカス広場 19名

○背景・目的

TBSホールディングスの社員の方々との交流や出展を通してメンバー同士の交流を深めながら、廃材活用を通して環境意識の普及啓発を図る。

○内容

TBSホールディングスが主催している『地球を笑顔にする広場』というイベントに、Re-Coverの廃材活用レジニアクセサリー制作のコンテンツを活用して、ワークショップを出展させていただきました。当日は非常に多くの方にワークショップに参加していただくことができました。また、この出展を契機として、定期的な交流会への参加や、出展ができるようになりました。



3 TBS 社内見学会

📅 2024年2月9日 📍 TBS本社 👥 11名

○背景・目的

TBSのサステナブル活動『地球を笑顔にするアクション』のメンバーや社員の方々との交流。

○内容

TBSホールディングスとの連携の始まりは2023年12月20日に学生会館で行なったミーティングで、本社を見学させていただきたいと申し出たところ、快く受け入れてくださいました。このイベントでは、TBSが取り組んでいるサステナビリティの活動の紹介や、スタジオや生放送の現場も見学をさせていただきました。



4 ICU SDGs推進室 交流会

📅 2024年2月17日 📍 ICUキャンパス 👥 3名

○背景・目的

ICU SDGs推進室のメンバーとの親交を深める。

○内容

前半はICUのキャンパスツアーを行なっていたいただき、様々な施設や活動を紹介していただきました。後半は早稲田に移動して参加者全員でワセメシを食べ、早稲田大学内で活動紹介とお話を楽しみました。



5

エシカルエキスポ 遠足

2024年5月25日 渋谷ストリームホール 3名

○背景・目的

同分野で活動をしている外部の方々との交流。

○内容

「エシカル」な活動を行なっている様々な組織・企業が出展している、展覧会のようなイベントに参加してきました。同時にピッチコンテスト等も開催されていて、大きな刺激となりました。



6

キリンホールディングス勉強会

2024年9月18日 学生会館 4名

○背景・目的

同分野で活動をしている外部の方々との交流。

○内容

キリン様の環境の取り組みについてインプットする勉強会を催していただきました。終始歓談のようで、緊張感も薄く良い雰囲気でした。国内だけでなく、国外でも活躍していることを知り、飲料メーカーとしての社会的責任について理解することができました。



7

渉外局タコパ

2024年2月28日 新宿 6名

○背景・目的

渉外局メンバー同士の交流を深める。

○内容

普段は真面目な活動が多いので、息抜きとして、たこ焼きパーティーを実施しました。関係性を向上させることで生まれる相乗効果を狙うとともに、美味しいたこ焼きづくりを楽しみました。



5. 27期代の展望

渉外局の今後の展望としては大きく3つあります。

1つ目、私たち環境ロドリゲスが環境イベントを主催し、多くの人に環境問題について考えるきっかけを与えることです。年内に動き始めて、来年の夏に開催しようと思っています。

2つ目、メンバーがやりたいことを可能な限り実現させることです。常に、メンバーの意見を積極的に聞き、一人一人が輝いて活動できるようにします。

3つ目、メンバーが成長する機会を最大化することです。誰でも気軽に情報交換や意見交換ができるLINEグループをつくり、メンバーの選択肢が広がる場をつくれます。

運営広報局 Management & Information

1. 活動方針 Goals

- 「①メンバーが活動しやすい環境を提供する」
- 「②ロドリゲスを内部から盛り上げ、支える」

2. 活動方針の背景・振り返り Review

運営広報局では、学校のイベントや組織運営、広報を担当しています。上記の運営方針のもと、メンバーの意見を良く聞くことを意識し、居心地よくミーティングやイベントに参加できる環境を目指しました。

1 地球感謝祭

📅 2024年9月23日 📍 早稲田大学 👥 62名

○背景・目的

企画を超えてメンバー同士が交流を深めながら、お客さんに環境問題に興味をもってもらえるきっかけをつくること。

○内容

6班に分かれて子供向けの出展を行いました。6月頃から27期・28期を中心に準備が進められ、着々と企画が形になっていきました。また、ロドリゲスの全ブースを回ってもらう工夫として、27期メンバーの提案で手作りの木製メダルを景品として用意しました。当日は出展も景品も好評で、訪れたお客さんに楽しんでもらえる素敵なイベントになりました。さらに、企画を超えてメンバー同士の交流も深まり、とても有意義な時間となりました。



2

新歓活動



2024年3月～



早稲田大学
日本女子大学



26名

○背景・目的

これから一緒に活動する新たなメンバーを増やすこと。

○内容

新歓統括を募り、新歓チラシや新歓冊子の作成、ビラ回収など、新歓の準備・運営を行いました。今年の新歓は、各企画コアメンバーを3人（3人×7企画=21人）獲得することを目標にし、そのために「楽しさと居心地の良さの提供」を意識して新歓に取り組みました。その結果、2024年5月末時点で約70名の新しいメンバーが入会してくれました。



3 ロドド



2024年6月～

○背景・目的

メンバーについての理解を深めること。

○内容

新入生にメンバーについてもっと知ってもらうために、自己紹介カード「ロドド」を発行しました。趣味や特技など、お互いについて知る良いきっかけになりました。ロドドの情報をもとにメンバー同士の交流も深まったと考えています。



4 ロドT作成



2024年6月

○背景・目的

イベント出展などで、環境ロドリゲスの象徴となるものをつくること。

○内容

今年度もロドTシャツを販売しました。組織としての一体感が生まれ、団体への帰属意識が高まることを期待し、幹事や運営広報局員と相談して作成に取り組みました。販売にあたり、ロド内でTシャツのデザインコンテストを実施し、投票で選ばれたデザインをTシャツにしました。外部のイベントに出展した際には、ロドTシャツが環境ロドリゲスというサークルの存在を知ってもらうための宣伝ツールとして機能していたと考えています。

5 ロド通信



毎月

○背景・目的

他企画や他局の近況、メンバーについての理解を深め、興味をもってもらうこと。

○内容

26期代でも、2ヶ月間の活動をまとめたサークル内部冊子、「ロド通信」を発行しました。ロド通信では、各企画の進捗、各局の進捗、幹事の進捗、会計報告、目安箱の回答、お楽しみコーナーなどを掲載しました。自分の所属していない企画や局の近況を知る良い機会になっていたと考えています。また、ロド通信発行後に実施した振り返りアンケートの結果をもとに、写真の多さや文字数、文字の大きさなどに配慮するなど、読んでもらいやすくなるような工夫をしました。

5. 27期代の展望

第一に、企画間の交流を増やし、ロドリゲスの、サークルとしての結束を強めたいと考えています。今のロドリゲスは企画ごとに独立した状態であり、全体での交流は合宿や早稲田祭などの大きなイベントに限られています。普段の活動から企画間の交流を積極的に行うことでメンバーの仲を深めるだけでなく、お互いの企画の活動を理解し良い刺激を与え合うことが目標です。

第二に、自分たちが環境問題についてもっと詳しく学べる機会を作っていきたいと考えています。ボランティアは実践活動が多く、問題に直接肌で触れる機会は多いですが、その問題がなぜ起きているのか、なぜ解決しなければいけないのか、サークルメンバー全員が真に理解しているとは言えない状況にあると思います。環境問題への理解を伴って活動することで、ボランティア活動により深みを持たせたいと考えています。

ボランティア活動の基盤となるサークルの結束力を高め、それぞれが環境問題を深く理解し、活動からより多くを得られるよう、一年間務めて参ります。よろしくお願いいたします。

03 | 26期代会計報告

1. ご挨拶 A few words

みなさま、こんにちは。26期代で会計を務めました江村叶です。先輩方から引き継いだ大切な資金を充実して運用することを目指して、1年間活動してまいりました。支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。この章では、26期代における総収支および省察と課題について私からご報告し、続いて27期代会計の浦本から、27期代の会計方針をご説明いたします。

2. 26期代会計方針 Policy

26期代では、従来の会計システムを大きく変更し、新しい体制を導入しました。会員の会費や謝礼金など、さまざまな資金の運用をより正確に、平等かつ透明性をもって行うことを目標に、以下の3つの新システムを導入しました。

(1) 会計監査の設置・資金の共同運営

これまでは当サークルの資金すべてを会計1名が担当していましたが、活動の多様化に伴う収支の増加や、返金への迅速な対応が難しく、ミスを発見しづらいという問題がありました。そこで、会計業務に携わる人員を増やすため、「会計監査」という役職を設けました。会計監査は、単なる監査だけでなく、会計処理や返金作業などの補佐的業務も担当しました。

(2) 資金申請制度

資金申請制度とは、サークル活動内で資金を使用する際に「資金申請書」を提出し、会計の承認を得てから資金を適用する制度です。前期代の反省として、会員の金銭意識が低下しているという課題がありました。出費に対して十分な検討をせず、「後でお金が出るだろう」という安易な考えが広がり、不必要な出費や活動計画の不備が目立っていました。しかし、この制度を導入することで、1つ1つの出費に会計の承認を得る必要が生じ、資金の使用が適切に行われるようになりました。さらに、出費がすべて申請書にまとめられるため、会計業務の正確さも向上しました。

(3) 交通費申請制度

当サークルでは、これまでの多くの期代で収入が支出を上回っていました。当サークルは非営利団体であり、黒字を目指すのではなく、いただいた資金を組織の拡大や活動の充実に積極的に活用することが大切だと考えています。収入源は会費や補助金、謝礼金、物品販売が主でしたが、これまでは会員の個人的な出費に対して補助がありませんでした。しかし、活動に参加しない理由として金銭的負担を挙げる会員が多かったため、会員がより参加しやすくなる制度が必要だと感じていました。そこで、今期代より、遠征などサークル活動における交通費の2割を支給する「交通費申請制度」を導入しました。全額補助では会費に対する還元が大きすぎるため、2割支給としました。この制度は、会員への還元と活動への参加ハードルを下げることを目的としています。

3. 収支概要 Overview

26期代の総収支明細を、章末の表4.1に示しました。今期代の総収入は1,047,191円で、前期代より15%増加しました。一方、総支出は1,025,863円で、前期代より28%増加しました。したがって、収支は21,328円の黒字となりました。ただし、今期代ではRe-Coverの口座を合併したものを収入として計上しているため、実質的には支出の方がやや大きいと考えられます。全体的には、早稲田祭の出展が悪天候の影響で予想よりも収入が少なかったことが主な赤字の要因となりましたが、総じてバランスが取れていたといえます。

4. 省察と課題 Reflections&Challenges

4.1 総収支に関して

今期代は、Re-Coverの口座合併を除くと支出が若干多い結果となりました。主な増加要因は、レンタカーや運転保険に関する出費、および手土産代です。前者は、活動の多様化や、ワークショップでの機材運搬のために自動車を使用する機会が増加したことによります。後者は、今期代の幹事の意向で手土産を経費として計上したためです。これらの増加は不必要な経費ではなく、活動範囲が広がった結果と考えられます。今後は、支出の範囲を明確にし、会員への周知を図る必要があります。

4.2 資金申請制度に関して

資金申請制度は、設定した目標をすべて達成できたと考えています。今後は、オンライン対応などの改善を加え、引き続き運用していく予定です。

4.3 交通費申請制度に関して

交通費の2割支給は、還元の一環としては機能していました。特に、やまなびを中心とする多くの会員がこの制度を利用しており、浸透していると言えます。ただし、2割の支給のみではインパクトが小さく、活動のハードルを下げるという目標に十分に寄与できたかは疑問が残ります。今後は、2割負担が適切かどうか、さらにどの項目に金銭的補助を設ければ活動へのハードルが下がるかを検討する必要があります。収支や平等性を考慮しながら、予算や会員アンケートなどを通じて検討していきます。

5. 27期代の展望 Future outlook

26期代を経て活動人数や活動場所、機会が大幅に増加しました。また、27期代幹事に求めるものとして内部充実が最も多いという結果になりました。このことから、資金を使う場面が増えることが予想されます。それに加え、外部と連携して活動を行うことも多くなってきています。以上より、27期代ではより厳格で適切な資金運用が要求されます。

それらを踏まえ、27期代の方針として

- (1)まめな記帳で現金預金管理を効率的に
- (2)メンバーへの還元を最優先に
- (3)外部からの信頼を勝ち取る会計

の3つを目標とします。

(1)に関しては、現金プールや口座から入出金した場合の記帳を徹底します。26期代では不十分であった現金出納帳もすべての入出金で記入し、会計の正確性と効率性を向上させます。

(2)に関しては、会計監査と連携しできるだけ多くの人に活動参加に応じて平等に還元されるように資金を運用します。具体的には、交通費などの参加頻度に比例して負担額が大きくなる項目の援助を重視します。また、返金方法や交通費支給方法に関しては従来通り資金申請書や交通費申請書を利用します。なお交通費は2割支給予定です。

(3)に関しては、外部からの信頼を得るため、透明性の高い会計を行います。具体的には、徴収した会費、いただいた補助金がどのように使用されたのかできるだけ細かく記録し、会計監査の二重チェックの上、決算報告します。

以上の3つの柱を運営方針とし、会計業務を遂行します。

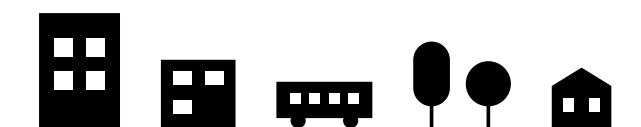


表4.1 26期代総収支明細

25期代 繰越金				¥1,388,186				
収入	会費		¥320,000		¥1,047,191			
	新歓費		¥0					
	協賛金		¥0					
	補助金	早稲田大学	¥8,365	¥276,365				
		鯖江市	¥268,000					
	謝礼金	SDGsフォーラム	¥5,000	¥108,100				
		セブンイレブン財団	¥10,000					
		環境パートナーシップ会議	¥3,500					
		新宿環境活動	¥22,000					
		日本ユース旅行	¥2,600					
		新宿NPOネットワーク協会	¥5,000					
		ユーカル鯖江	¥60,000					
	収益	早稲田祭2024(全体)	¥153,000	¥214,000				
理工展・早稲田祭(Re-Cover)		¥61,000						
Re-Cover 口座合併		¥128,655						
利息		¥71						
支出								
					企画	ecoSMILE	¥330,003	¥384,257
						Re-Cover	¥13,247	
						やまなび	¥0	
						うみさんぽ	¥9,087	
						REC	¥0	
						えこのわぐま	¥0	
						えこねくすと	¥31,920	
					執行部	渉外局	¥0	¥102,100
						運営広報局	¥44,766	
						企画経理局	¥57,334	
					イベント	早稲田祭2024(全体)	¥232,047	¥258,929
						理工展・早稲田祭(Re-Cover)	¥11,870	
						地球感謝祭	¥15,012	
					保険費		¥30,650	
					交通費		¥45,165	
					用品費		¥48,325	
通信費		¥43,727						
賃借料		¥63,574						
手数料		¥8,020						
雑費・前期代返金対応		¥41,116						
26期代 繰越金				¥1,409,514				

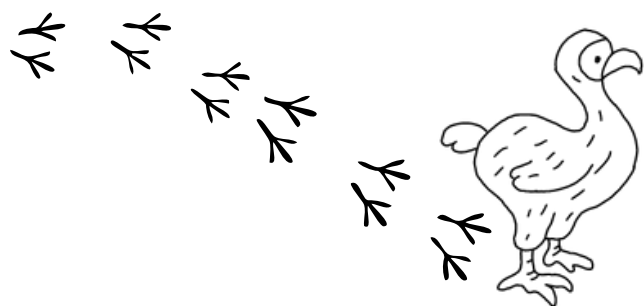
04 | 27期代活動方針

1. 27期代の目標 Goals

27 期代幹事は、幹事内での話し合いとメンバーに対して行ったアンケート結果から、以下の目標を設定しました。

- ① ロドを居心地のいいサークルにする
- ② PDCAサイクルの徹底
- ③ 環境問題への理解を深める
- ④ 企画間で連携を強める

上記の目標を設定した背景とこれからの方針については後述します。



2. 環境ロドリゲスの現状 Now

メンバーに対して以下のアンケートを行いました。

○27期代幹事に最も求めるものは何か

- [選択肢] (a) 内部充実（企画間交流会、全体合宿、金銭的サポート、部室整備など）
- (b) 外部連携（他団体との交流やコラボ、企業連携など）
- (c) 学習会の拡充（知識のインプット、シンポジウム、全体ミーティングなど）
- (d) 発信・啓発活動（SNS運用、登壇イベント、賞への応募、ポスターなど）
- (e) その他（自由記述）

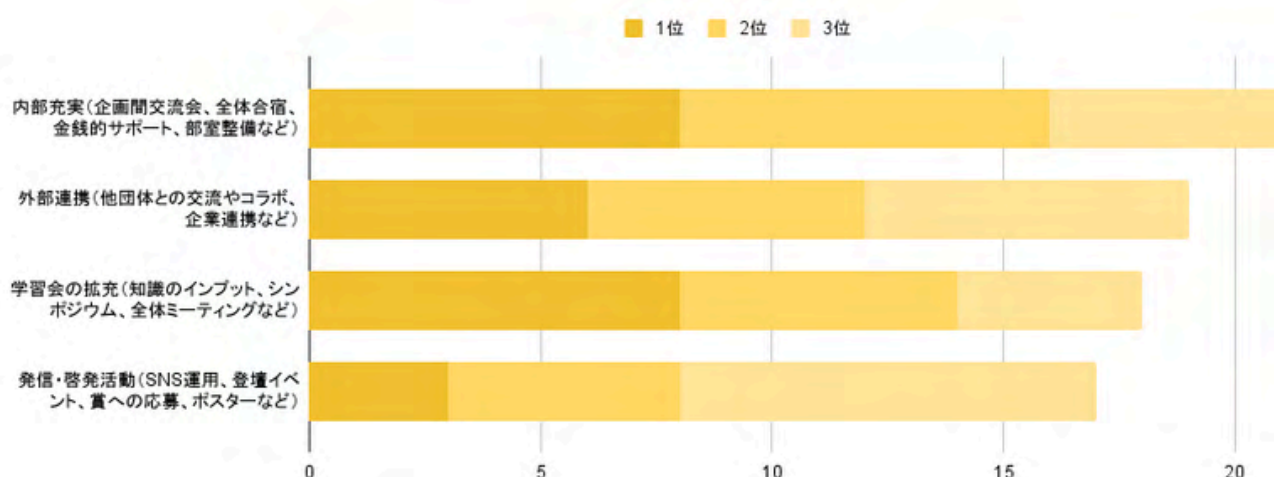
○27期代幹事に二番目に求めるものは何か（選択肢同上）

○27期代幹事に三番目に求めるものは何か（選択肢同上）

○これまでの活動で力を入れてほしいことは何か（自由記述）

○新しく行って欲しいことは何か（自由記述）

以上の項目について、計25名のメンバーから回答をいただきました。幹事に求めるものについて聞く質問の結果は以下のようになりました。



最も多いものは「内部充実」という結果になりました。サークル内イベントの充実、金銭サポートや機材など活動基盤の整備を望むメンバーが多いと考えられます。同程度注目すべき項目が、学習会の拡充です。この項目を最も求めるというメンバーが内部充実を求めるメンバーと同数で一番多くなっています。このことから、今までのように現場に行ってボランティアをするだけでなく、学びに重点を置いたイベントも求められていることが分かります。次点で他団体との交流や企業と関わる外部連携が多く求められています。力を入れてほしい活動、新しくやって欲しい活動では、どちらも勉強会に関する意見が複数出ました。また、企画間での交流をもっと増やしてほしいという意見も多かったです。幹事内で話し合った結果、サークルの現状の課題として主に以下の三点が挙げられました。

(i) 目標の設定と振り返りができていない

現状の環境ロドリゲスでは、どういう目的・意味があるのかあまり意識されないという課題があります。25期、26期では活動のフィールドを広げて参加するイベントの数も増えましたが、これらの意識がなければ次へ活かすことができず、活動の意味が薄くなってしまいます。

(ii) 知識インプットの機会が少ない

先ほどのアンケート結果のように、学習会の開催を求めている人が多いのにも関わらず、現状では現地の活動に比べて学びに重きを置いた活動が少ないです。学習機会の減少は活動の目的意識の低下にも繋がります。

(iii) 企画間での交流が少ない

企画間交流も学習会同様、アンケートで複数のメンバーから求められていました。現状では企画関係なく集まって親睦を深める場は定期的には開催されていますが、それでも他企画の人と話す機会が少ないことに加え、複数の企画が合同で環境活動を行うということは極めて少ないです。活動フィールドの多様性は環境ロドリゲスの強みのひとつなので、積極的にコラボすべきと考えます。

3. 目標達成のための具体的な手立て Way

前述した現状課題を踏まえ、四つの目標と目標達成のための具体的な手立てを以下に記述します。

① ロドを居心地のいいサークルにする

メンバーへの積極的な声かけ、交流の場の提供に注力します。特に企画間交流会については、二ヶ月に一回の開催を目標としています。

② PDCAサイクルの徹底

各企画長に企画やイベントごとに目標の設定と振り返りを徹底するように伝達します。幹事は普段の活動を監督し、必要があればこの流れを促します。

③ 環境問題への理解を深める

環境問題についてのシンポジウムを何度か開催し、インプットとアウトプットの時間を設けます。そこでは、外部講師や環境ロドリゲスのOBを招き、ひとりひとりが環境問題についての知識を得ると同時に、自身の持っている意見を交換し合います。

④ 企画間で連携を強める

年4回を目標に全企画が集まるミーティングを開催し、互いの企画について情報を共有したり、活動を理解したりする場を設けます。それにより自分の企画や活動を結び付けて、コラボしたり派生させたりするアイデアを生みます。

これらのことを幹事、企画長、そしてメンバー全員が継続的に意識することにより、目標を達成したいと考えています。

05 | 各企画活動報告



○ 内容 ○

活動理念	今年度の方針	活動概要
今年の活動	今後の展望	



「環境×里山」やまなび

活動理念 Philosophy

やまにまなび、やまをナビする

26期代の方針 Policy

「各活動の参加人数を増やす」「活動範囲を広げる」

活動概要 Overview

26期代では、25期代で進めていった活動頻度の増加と活動内容を多様化する方針を定着させつつ、各イベントにおけるメンバーの参加人数の増加を図りました。

27期代の展望 Future Outlook

27期代では「里山の環境問題解決に貢献する」というやまなび発足当初の目的を受け継ぎつつ、二つの方針を掲げます。

一つ目は従来の森林整備だけでなく広い視野をもって里山に向き合うことです。今年度12月にプレゼンコンテストを通して里山に関連した環境問題について理解を深め、全体で目的意識を持つことを目指しています。

二つ目はイベントを増やし、仲良く、楽しいやまなびを作ることです。具体的には、活動とは別に月に1回ほどのペースで仲を深めることを目的としたレク・イベントを開催することを目指します。皆さんこれからのやまなびに期待してください!!!

1

独歩の森ボランティア

#独歩の森 #森林整備

📅 月に1度 第2日曜日 📍 武蔵野市境山野緑地
もしくは第4日曜日

👥 5名程度

〔背景〕 かつて日本女子大学に在籍していたメンバーの紹介により、日本女子大学で教授を務められていた田中雅文さんが代表である「武蔵野の森を育てる会」というボランティア団体の活動に参加させていただくことになりました。

〔目的〕 武蔵野市に残された貴重な緑地の保全を通して、自然環境の保護について学ぶこと。
地域の保全団体や学生団体とともに活動することで、同じビジョンを共有し、その地域の現状について共に考えていくこと。



〔内容〕 緑地内でのゴミ拾いの他、森林環境の整備のための間伐、除草、低木剪定、外来種駆除などを行います。また、竹の間引きやどんぐり拾いなど季節ごとに活動内容が異なります。10月の活動では、独歩の森を活用した子供たち向けの体験型イベントも行いました。

2

長柄町訪問

#放置竹林 #地域活性化

長期休みを利用して冬に1度
夏に2度訪問

千葉県長柄町



12名程度

〔背景〕NPO法人「ふるさとネッツ」で理事を務められている井上源太郎さんの活動に、森林整備やセルフビルドのお手伝いとして参加させていただいています。

〔目的〕2日間の森林整備を通して、より本格的に森林整備に取り組むことや、井上源太郎さんの他、地域おこし協力隊などその地域で活動されている人々の声を聞き、里山の抱える課題について理解し、その解決策について考えていくこと。

〔内容〕基本的な活動としては、1日目はセルフビルドで建てられた家周辺の森林の整備、去年の災害によって倒れた木や川に流された流木の除去などを行いました。2日目は井上源太郎さんの知り合いの方の家まで訪問し、裏山の整備や竹を用いた工作などを行いました。



3

吉見町ボランティア

#地域活性化 #里山



月1回程度



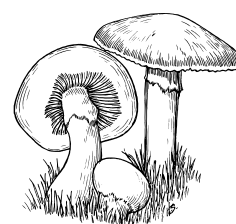
埼玉県吉見町



5名程度

〔背景〕昨年、早稲田大学OBであり、吉見町で地域プロジェクトマネージャーを務めている坂本明さんよりやまなびと吉見町で連携して何かできないかという旨の連絡をいただいたことがきっかけで始まった活動です。

〔内容〕森林内での間伐の他、除草、低木剪定、シイタケ栽培、薪割りなどを行います。また活動終了後に、坂本さんに吉見町内での名所の案内をしていただいたり、地域で里山問題について活動している人たちを紹介していただいたりしています。



4

高尾の森でのボランティア活動

#低炭素社会 #生物多様性

📅 月1回程度

📍 高尾の森自然学校

👥 5名程度

〔背景〕25期代より始まった活動です。セブンイレブン記念財団と東京都との共同事業として、高尾の森自然学校が行っている森林の保全事業に、ボランティアとして参加させていただいています。

〔目的〕八王子の貴重な森林を守り、低炭素社会の実現や生物多様性の保全を目指すこと。

東京都内という比較的メンバーが通しやすい距離にある場所で、本格的な森林整備について経験していくこと。

〔内容〕高尾の森の活動は

①森林整備活動がメインである「森のお手入れボランティア」②半年に1度くらいに自然学校の方で開催される子供向けのイベントに、出展者側として参加することの大きく2つに分かれます。

イベントでは例として、4月に実施した森の音楽祭で楽器作りのワークショップや演奏会などを行いました。





「環境×教育」ecoSMILE

活動理念 Philosophy

環境教育を通して、持続可能な社会を形成する人物を育成する。

26期代の方針 Policy

26期代ecoSMILEでは『オンラインと対面の両立を図り、より多くの子供たちと触れ合う』という事を目標に「コロナ後におけるイベントの円滑な引継ぎ」、「出前授業の復活」、「フィードバックの徹底と子供に好かれる環境作り」を掲げ、活動してきました。

活動概要 Overview

25期代にて、対面での出展が多くなってきた機を逃さずに方針の1つである円滑な引継ぎを行い、26期代ecoSMILEでは1ヶ月に1回以上の出展ペースを維持することができました。また、出張授業や夏鯖江ではメディアに取り上げてもらうことができ、飛躍した1年となりました。

27期代の展望 Future Outlook

学校へのお出張講義を増やして、子供たちとの関わりを増やしたいです。
また、小さい子ども達だけではなく、中高生や大学生に向けた授業を実施できるよう学びを深めていきたいです。

1

夏鯖江ゆるりん2024

#環境教育 #めがねのまち



2024年8月17日～20日



福井県鯖江市「ユーカーさばえ」



15人

【背景】10年以上お世話になっている『ユーカーさばえ』様と協同で鯖江市の子供たちに向けて毎年春・夏の2回行っているecoSMILEの恒例行事です。1度コロナ禍を挟み、オンラインでの実施を行いましたが、2023年夏から対面形式でイベントを開催しています。

【目的】鯖江市の小学生に向けて、環境問題について興味をもってもらうきっかけを作る。

【内容】2日目の8月18日に1日開催で3種類の環境教育プログラムと学習支援を実施しました。

「フードマイレージ」：食料を取り寄せる距離が遠いほど環境負荷がかかることを模したアクティビティを作り、実際にエネルギーが必要であることの体験をしてもらいました。

「外来種」：オリジナルのすごろくを用いて授業を行いました。すごろく内では外来種ポイントの有無で順位が決まり、クイズにて逆転できる仕組みを作りました。

「森林破壊」：竹のカスタネット作りをメインテーマとし、放置竹林や耕作放棄地についての授業を実施しました。

以上のテーマでそれぞれ60分、それぞれにアクティビティを催すことで楽しみながら学んでもらうことができました。

また、鯖江市長の佐々木勝久さんにご挨拶をするとともに、2日間にわたり、地元の方と農業体験も行いました。

2

こども霞が関見学デー

#環境教育 #環境省

 2024年8月7日、8日
  環境省
  8人

〔背景〕昨年に引き続き『環境省環境教育推進室』様と合同で企画を行い、出展いたしました。

〔目的〕本イベントに参加する子どもたちに、実際の環境問題について知ってもらう。

〔内容〕現在の私たちが一番身近な環境問題であるフードロスについて、現状の報告や家で出来る不可食部を用いた掃除方法などをまとめた資料を製作し、配布をしながら環境教育を行いました。2日目では、1日目での反省点を踏まえ、実際の野菜の具体的な重さをクイズ形式で尋ねたり好きな食べ物についてのお絵かきをしたりといった子供に飽きさせない形式を臨機応変に取り入れることができ、食についての理解を深めてもらうことができました。



3

出張授業

#ネオキャリア #マイクロプラスチック

   2024年6月5日 西新宿小学校、5人
  2024年7月10日 早稲田小学校、6人

〔背景〕『株式会社ネオキャリア』様に西新宿小学校の校長につないでいただき、環境の日に合わせて環境教育プログラムをさせていただきました。また、新聞で取り上げてもらい、興味を持った早稲田小学校の方でも実施する運びとなりました。

〔目的〕小学校4年生を対象にマイクロプラスチックについて学んでもらう。

〔内容〕プラスチックと共存するという答えのない問題についての環境教育プログラムを実施しました。生物濃縮にまつわる鬼ごっこを交えて私たちに起こっている影響について学んでもらいました。子どもたちの感想には身近に感じる事ができたというものがあり、私たちの生活の一部となっているプラスチックについて、考えてもらうきっかけを与えることができました。



4

オンデマンド講座

#オンライン #フードロス

 2023年12月16日
  学生会館
  4人

〔背景〕 普段から懇意にさせて頂いている『こどもエコクラブ』様と共同でオンデマンドにて講座を開くことになりました。

〔目的〕 オンライン開催のため、多くの子供たちにフードロスについて知ってもらう。

〔内容〕 家の中にある消費期限・賞味期限を探してきてもらうことでオンラインでも体を動かしてもらうように工夫を凝らしながらフードロスについて学んでもらいました。オンラインでも率先して意見を言うてもらうことができ、和気あいあいとした雰囲気では一方通行ではない授業をすることができました。



5

西早稲田こども天国

#早稲田 #コラボ

 2023年11月26日
  大隈通り
  11人

〔背景〕 早稲田地域での子ども向けのイベントをより盛り上げるために出展に至りました。

〔目的〕 メンバーと子どもたちが一緒になって楽しく自然に触れ合ってもらう。

〔内容〕 初めてのやまなびとコラボした企画で、実際の本とツタを使ったわなげのブースを出展しました。あいにくの小雨と寒さでしたが、200人を超える子どもたちが来場し、自然のわなげに驚きながらも楽しんでもらうことができました。



6

無料学習会

#紙芝居 #エコ

 2024年5月14日
  目黒区役所中央児童館

 4人

〔背景〕 新歓の時期に子供と触れ合うイベントが無いため、子ども食堂などを運営している『こどもば』様に連絡を取り、小学校4~6年生が放課後に宿題などを行う無料学習会にて実施に至りました。

〔目的〕 子どもたちに日頃の生活を振り返ってもらう

〔内容〕 日頃の生活の一部を切り抜いた紙芝居を製作し、その場面でどのように行動すべきかを考えてもらいました。子どもたちの数が10人程度と少人数で行ったため、一人一人にフォーカスを当てることができ、普段のエコな活動について知ってもらうきっかけを作ることができました。



7 ドングリを使ったものづくり会

#ドングリ #解散式

📅 2024年10月13日 📍 野毛山動物園 👥 16人

〔背景〕 昨年の交流を引継ぎ、どんぐり拾い隊というイベントに合わせた出展を実施しました。

〔目的〕 26期代最後として子供と触れ合ってもらおう。

〔内容〕 クマ、どんぐりに関するパネル展示とどんぐりを使った置物制作を行いました。こだわりが多い子もたくさんいて、とてもにぎわいながら出展することができました。26期代最後という事もあり、解散式も学生会館にて行いました。



8 全国フェスティバル2024

#こどもエコクラブ #

📅 2024年3月24日 📍 国立オリンピック記念青少年総合センター 👥 7人

〔背景〕 『こどもエコクラブ』様が毎年開催している総会で、スタッフとして協力しているイベントです。

〔目的〕 全国の小学生の発表の場の緊張をほぐす。

〔内容〕 総会の開会式でのアイスブレイクや子どもたちが行う発表の場のファシリテーターを務めました。環境に対して行動している多くの小学生と交流することができ、私たちにとっても良い刺激になりました。



9

新宿エコライフまつり

#エコギャラリー新宿 #出店

2024年6月1日 新宿中央公園 10人

〔背景〕 普段からお世話になっている『エコギャラリー新宿』様からのお誘いを受けて出店に至りました。

〔目的〕 メンバーと子どもたちが一緒になって楽しく自然に触れ合ってもらおう。

〔内容〕 「西早稲田こども天国」で行ったわなげを実施しました。初めて子どもと触れ合うというメンバーがいて、終始和やかな雰囲気をもった出展でした。新宿を拠点に活動している団体の出展もあり、交流を深めることも出来ました。



10

春鯖江ゆるりん2024

#環境教育 #めがねのまち

2024年3月2~5日 福井県鯖江市「ユーカーさばえ」 12人

〔背景〕 夏鯖江と同様

〔目的〕 夏鯖江と同様

〔内容〕 本イベントでも夏と同様に3種類の環境教育プログラムを実施しました。

「木材工作教室」：カスターネットの端材を使って海洋生物に見立てた工作体験を行いました。

「フードロス」：オンデマンド講座で行った内容のリメイク版を行いました。

「クイズ大会」：○×クイズや三択クイズ、海洋生物鬼ごっこなど体を動かす物中心に実施しました。





「環境×海」 うみさんぽ

活動理念 Philosophy

学生の立場から海洋環境問題に取り組むことで、日々の環境意識を高める

26期代の方針 Policy

- ・活動内容の拡大・充実
- ・合宿の実施
- ・他団体との交流の活発化

活動内容の拡大・充実のため、自分たちの企画の活動を振り返って考え直し、また、自分たちが問題をしっかりと理解することができるように努めました。また、25期代より築いてきた他団体とのつながりを深めることに加え、新たなつながりを作り、学生ボランティア同士で協力し合えるコミュニティを作ることを目指して活動しました。

26期代うみさんぽは、活動参加者数に悩まされながらスタートしました。まずは活動参加者数の確保と定着を図るため、イベントに遊びの要素をつけて参加者が楽しめる環境を作ることに努めました。現在では一年生もたくさん入り、イベントもとてものにぎやかになりました。うみさんぽとして初の合宿の実施を一番の目標にしてきたので、達成できたことを嬉しく思っています。以降の代にも合宿を引き継げるように、来年度も力を尽くしていきます。

活動概要 Overview

海、川などの水圏環境の保全に向けたボランティア活動をしています。海岸や河川の清掃活動のほか、外来生物の駆除活動も行っています。活動で成果をあげるだけでなく、私たち学生がボランティアとして活動している姿を外部の方々に見てもらうことで、環境を意識する人の輪を広げることが目標としています。



27期代の展望 Future Outlook

①学びを重視する実地活動へ

うみさんぽマップや活動資料の作成を通して野外活動の記録の充実と可視化を図り、一回一回を学習と復習ができる“教科書”のように活かしていきます。“対策としての野外活動”から“情報源としての野外活動”への転換を目指します。

②実績を作るための組織作り

規模と活動の幅を広げ続けるうみさんぽにおいて外来種をはじめとした様々な活動でチームを形成し、“活動の個別化と組織化”を目指します。組織全体よりも機敏性が高くメンバーの能力や向上心に向ける場となるチームは、活動実績の増加につながると考えております。

③他企画や外部を取り込んだ活動の拡大

うみさんぽが持つ大きな可能性を活かしてやまなびをはじめとした他企画合同の活動を企画し、外部の動きには常にアンテナを張り、外部開催の活動など可能なものには意欲を持って参画したいと考えております。

1

うみさんぽ合宿

#合宿 #交流

2024年 8月8日、9日 三浦半島 8人

〔背景〕

長期休みを利用して、普段は行くことができない海岸のビーチクリーンを行ったり、他地域の水圏環境問題への取り組みを学んだりする機会を作りたいということで、これからも毎年継続的に行える合宿を創ろうとメンバーたちと企画しました。

〔目的〕

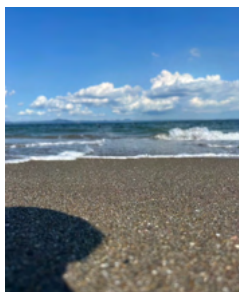
- ①長期休みを利用して遠方の海岸でビーチクリーンを行い、日本全国の海洋プラスチック問題の現状を考える
- ②メンバー同士の交流を通じて仲を深める

〔内容〕

うみさんぽ発足以来初めての合宿を行いました！初めての試みということで、今回は近場の三浦半島を合宿地を選びました。

一日目は城ヶ島で観光や海鮮丼を楽しみました。観光を通じて、一見綺麗に見える景色の中にも多くの海洋ゴミがあることを目の当たりにするとともに、今より少しでも綺麗な海を次世代に残したいという気持ちが強まりました。

二日目は三浦海岸でビーチクリーンを行いました。三浦海岸はかなり漂着ごみが多く、ペットボトルや缶、ビニールのほか、発泡スチロールやプラスチックカゴなどの大きなものもたくさんありました。今回のビーチクリーンでは、海水浴に来ていた小学生が声をかけて海で見つけたゴミを渡しに来てくれるという出来事がありました。ビーチクリーンをしていると、自分たちはどれだけ問題に貢献できているのだろうか、と虚しさを感じてしまうこともあります。自分たちの活動は少しでも誰かの意識を変えるきっかけになれているのかもしれないという嬉しさや勇気をもらえた出来事でした。どれだけゴミを集められたか、という成果だけを見るのではなく、自分たちの姿を誰かに見てもらうことも意識して活動していきたいと思います！



2

ビーチクリーン

#ビーチクリーン #小さなことからコツコツと

2023年 12月23日	由比ヶ浜	12人
2024年 6月9日	鵜沼海岸	18人
8月9日	三浦海岸	8人
9月19日	葛西海浜公園	14人

〔背景〕

自分たちの住む周辺の地域の海岸の海洋ごみ問題の現状を実際に現地に行くことで理解し、また、その様子を発信することでビーチクリーンに興味を持つ人を増やしたいと考え、昨年度より活動頻度を増やして行いました。

〔目的〕

- ①海岸清掃で海洋ごみ問題の解決に貢献する
- ②東京周辺の海岸を清掃し、海洋ごみ問題に直接触れることで自分たちが生活している地域の問題の現状を理解する
- ③活動の様子を見せることで、地域の人に環境問題を意識してもらうきっかけとなることを目指す

〔内容〕

二か月に一度のペースで、毎回違う海岸に足を運んでビーチクリーンを行いました。海岸ごとのごみの特徴や、どんな場所にゴミが多いか、それはなぜなのか振り返って考察し、次の活動に活かせるよう心がけています。今後はさらに分析を深め、資料として残すことを検討しています。SNSでの発信にも力を入れ、Instagramでうみさんぽの活動を見た人たちが「自分たちも行ってみよう」と興味を持てるような活動を目指しています。



3

ミズヒマワリ除去活動

#外来種 #早起きな生活



2023年10月29日

7人



千葉県 香取市 長島新堀

2024年3月31日

5人



〔背景〕

25期代より、東京釣り協会と協力して千葉県香取市の川で特定外来生物のミズヒマワリの除去活動を行っています。水面をマット状に覆うミズヒマワリは、大規模な繁殖により魚類の成長を妨げ、生態系に悪影響を及ぼしています。また、この問題は生態系だけでなく、水路の水流阻害などによって地域の住民の生活にも悪影響を与えています。

〔目的〕

- ①ミズヒマワリ除去活動を通じて、生態系の保全や地域の環境問題の解決を目指す。
- ②協会や地元の方との交流を通して、外来種に関する知識を増やし、現状についてより詳しく理解することを目指す。

〔内容〕

アメリカンレーキなどの農具を用いて、川の水面に繁茂した外来植物のミズヒマワリを岸に引き上げ、乾燥させる作業を行いました。ミズヒマワリの重みで引き上げる作業は非常に体力を要するものでしたが、メンバーと協力して楽しみながら作業をすることができました。また、水草に流れてきたゴミが溜まりやすく、除去作業の一環としてゴミ拾いも行いました。

行くたびに元通りになるミズヒマワリに外来生物の繁殖力の強さを思い知らされる日々ですが、今後も継続的な活動を展開し、根絶を目指して活動していきます。



4

江戸川クリーン

#外部連携 #ゴミ拾い



毎月第三土曜日



江戸川河川敷、山手線沿線



[背景]

一昨年から繋がりを持った学生団体「おりがみ」と共に立ち上げた定期的なゴミ拾い活動です。活動の狙いとして、既に環境活動に取り組んでいる大学生はもちろん、環境活動に触れたことのない大学生をターゲットに、環境に対して関心を持つきっかけを提供するとともに、環境課題の解決を目指しています。また、関東近辺で環境活動を行っている団体とも連携し企画を作り上げていき、環境活動に取り組む人々の輪を広げていきたいと構想しています。実際、活動が定着した後、早稲田大学学生ボランティア企画集団NUTSの方にも加入して頂き、現在は3団体で活動の企画を行っています。

[目的]

- ①環境活動に参加するきっかけとなる場を提供する
- ②他団体や地域と連携し、江戸川クリーンやその他の環境活動を共同で作りに上げていくコミュニティを形成する
- ③ごみ拾いをきっかけとして集まった様々な立場の大学生や地域の人々とのつながり、さらなる環境活動への参加を促し、環境活動の輪を拡大する

[内容]

月に一回、環境ロドリゲス、学生団体おりがみ、早稲田大学学生ボランティア企画集団NUTSの3団体で清掃活動を行っています。25期代では江戸川の清掃を行っていましたが、26期代からは江戸川にとどまらず山手線沿線で街の清掃活動を行いました。ただ清掃をして終わるのではなく、活動後に公園で遊んだり焼肉に行ったり花火をしたりと参加者が楽しめるよう工夫をしましてまた来たいと思える清掃ボランティアを目指しています。



5

GBEF参加

#コンテスト #活動を振り返る

[背景]

GBEF (Green Blue Education Forum) は環境省と共催される、身近な体験を通じて考えた「守りたい環境、創りたい未来」をテーマに発表するフォーラムです。

InstagramからGBEFより参加のお誘いをいただき、外部に向けた発信をし、自分たちの活動を見直す良い機会だと考え参加を決めました。

[目的]

- ①自分たちの活動を外部の人間に伝えるべく言語化する過程で改めて活動内容や意義を見直し、今後の活動に生かす
- ②活動を外部に発信することで新たな団体や人との出会いを得るきっかけを作る



[内容]

GBEFというコンテストに、うみさんぽの活動を紹介する三分間の動画を作成して応募するという形で参加しました。メンバーとミーティングを重ねて自分たちの活動の内容や意義、強みや課題をじっくり考えることができ、非常に有意義な時間となりました。残念ながら受賞とはなりませんが、今後もこのようなコンテストに積極的に参加していきたいと思います！

6

展示会見学

#マイクロプラスチック #学びを深める



2024年9月24日



アニエスベーギャラリーブティック



5人

[背景]

アニエスベージャパンの主催する、アパレル業界の視点から見たマイクロプラスチックの現状についての展示会を見つけ、メンバーと見学に行ってきました。

[目的]

ただボランティア活動をするだけでなく、問題への理解を深める時間を作る。海洋プラスチック問題についての理解を深め、より収穫のあるビーチクリーンをつくる一助とする。



[内容]

「誰がマイクロプラスチックを食べているの？」というアパレル業界の視点から見たマイクロプラスチックの海洋流出問題についての展示会に行ってきました。マイクロプラスチックの種類や日本における分布などが視覚的に理解できるようにされた展示で、うみさんぽのこれからの活動を考えていくうえで非常に有意義な時間となりました。



「環境×地域活性」 REC

活動理念 Philosophy

RECという名前は「Rediscovery」「Experience」「Communication」の頭文字から来ています。主な活動場所は佐渡であり、絶滅危惧種のトキや、ジオパークとして有名な佐渡島の環境の素晴らしさの再発見を、佐渡旅やボランティア活動を通して行っていくことを活動理念としています。

26期代の方針 Policy

今年度は、2つの目標を中心に活動しました。1つ目の目標は、REC内で完結していた佐渡旅をREC外の人も巻き込んで実施することです。今年度の佐渡旅はロド内で参加者を募り現地の方やOBとコミュニケーションを取りつつ準備を進めることができ、初めて佐渡に来た人にとっても初めてではない人にとっても佐渡の魅力を確認する良い活動となりました。また、内輪で完結するだけでなく、活動の様子を動画にし、REC公式インスタグラムで投稿することで、外部への働きかけも行うことができました。反省点としては、RECメンバーが少ないため旅のファシリテーションをする人員の確保が難しく、佐渡旅の催行人数を少なにとどめなければならなかったことが挙げられます。

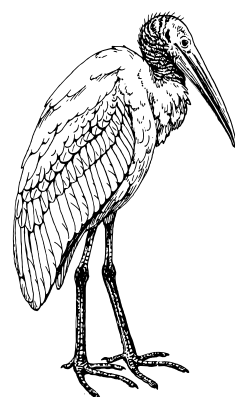
2つ目の目標は、佐渡旅以外での活動を増やすことです。RECの活動頻度を増やし、佐渡以外の観点から地域活性を考えるために、6月に群馬県みなみ町へ訪問しました。ここでの活動を公式インスタグラムに投稿したことで、地域の魅力の広報もできたと考えています。今後も佐渡以外へのフィールドワークも継続的にを行い、活動頻度を担保したいと思います。

活動概要 Overview

外部向けに「佐渡旅」を企画し、直接佐渡島に足を運んでもらうことで、佐渡島の魅力や自然を体験してもらいます。また、現地の人々と直接コミュニケーションをとり関係を深めることによって継続的な佐渡への訪問とその活動をより具体的なものにし、再発見し、地域活性について考える機会を提供します。

27期代の展望 Future Outlook

今後の展望としては、夏休み中の外部向けの佐渡旅の実施に向けて、春から計画づくりに着手したいと考えています。それに際し、REC新メンバーと佐渡旅参加者に向けて、佐渡島について学ぶ機会をさらに確保していく予定です。また冬の期間の活動についても、オンラインで佐渡島の人々と交流の機会を設けるなど、佐渡島と繋がりを保ち地域活性について考える機会を確保していこうと考えております。現在は、以下に書きましたように、メンバーが少ないので、新歓を積極的に行いコンスタントに対面で活動することで、メンバーの数を増やすことも目標としています。



1

素浜海岸清掃

#ごみ問題 #素浜海岸



2024年8月23日



新潟県 佐渡島 素浜海岸



4名



〔目的〕 佐渡は海外からのごみが非常に多く漂流してくるため、多くの海岸清掃ボランティア活動が必要になります。そこで自分たちが参加し、ごみ拾いをしていく中で佐渡のごみ問題について知ることを目的としました。

〔内容〕 佐渡島の素浜海岸を清掃することで、佐渡の海岸のごみの多さやその漂流したゴミを佐渡のごみ問題とその現状についてよく知ることができました。また、佐渡の方とのコミュニケーションを通して佐渡の取り組みについて知ることができました



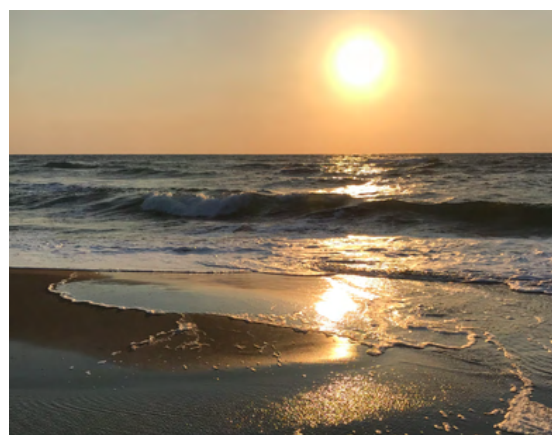
素浜海岸とごみ問題

観光地の海にとって重大な問題が漂着ごみです。もちろん素浜海岸も例外ではありません。素浜海岸は、南北4kmにわたって砂浜が広がり、海水浴ができる佐渡最大の海岸で、美しい景観が広がります。

一方、漂着ごみは一度清掃すれば終わるものではなく、恒常的な景観の悪化を引き起こします。

また、地元住民の高齢化により清掃にも限りがあります。

ボランティアを通じて清掃をすることは海へのゴミの流出を抑え、観光地を悩ます漂着ゴミをなくすことに繋がるため、重要な意義があると考えられます。



参考:https://www.sadossari.jp/letter/letter_20220225
<https://www.sfinter.com/report/post-1781/>

2

観光ボランティア

#佐渡旅 # 旧山本悌二郎別荘



2024年8月24日



新潟県 佐渡島 矢島



4名

〔目的〕 ボランティア活動として佐渡に住んでいる方からその場所の説明を受けることで佐渡の知見を深めるとともに、それを観光客に案内することで佐渡の魅力を多くの人に伝えることを目的としました。

〔内容〕 矢島の旧山本悌二郎別荘にて、その場所の管理者の方からその別荘の案内の仕方を教わり、それを佐渡に訪れた観光客に説明し、別荘があった背景やその魅力を伝えました。現地の方と観光客の方の両方とコミュニケーションをとることで、現地の方の考えや観光客の、佐渡に興味を持った理由について学ぶことができました。また、島だからこその景色の特徴を知ることができました。



旧山本悌二郎別荘

新潟県佐渡ヶ島の景勝地「矢島経島」の矢島に1911年（明治44年）に東京から宮大工を連れてきて3年かけて完成させた、山本悌二郎の別荘。近年は、茅葺き屋根にぽっかり穴が空き、建物は傾き、経年による損傷も大きく維持管理が難しい状態でした。

受け継ぐ人がおらず、「このままでは解体するしかない」という話が上がっていましたが、「唯一無二の建築物を残したい」という想いを持った人々から始まり、2022年に大規模な修繕が始まりました。

2023年秋に実施したクラウドファンディングでは、多くの支援があり、修繕費の一部に当てられました。矢島の旧山本悌二郎別荘は2024年7月13日より一般公開が始まります。





「環境 × 商品開発」 Re-Cover

活動理念 Philosophy

- ・ 廃材・端材を使用した商品の、開発・製作・販売・ワークショップを通じて、廃材・端材の使用への理解や普及を促す。それにより、資源循環型社会の実現に貢献する。
- ・ 背景には、SDGsの12番目の目標「つくる責任・つかう責任」がある。

26期代の方針 Policy

- (1) Re-Cover全体の目標の達成と同時に、各メンバーの目標の達成も目指す。
- (2) SNSを駆使し、商品が誕生した経緯を説明するとともに、環境に配慮していることをアピールする。
- (3) 製品の販売やワークショップを通して、リサイクルや循環型経済についての知識を伝える。また、廃材を再利用する具体的な方法を、SNSを通して不特定多数に伝える。
- (4) 日常生活で使用できたり、Re-Cover以外の人でも製作できたりといった、付加価値のあるものづくりを扱う。
- (5) 廃材や端材の割合をより多くする。

【感想と反省】

- ・ 勉強会の結果を踏まえ、製品が環境に与える影響を評価し、改良を試みました。また、ワークショップをより円滑に進められるよう、整理券を発行するなどの新たな工夫を、開催する度に重ねました。それにより、製品やワークショップの質を高めることができました。
- ・ 製品の製造や販売の規模を大きくすることを目指し、出店の機会を平均月1回に近づけることはできましたが、オンラインで出品した製品は売れませんでした。また、製品をメンバーが手作業で製作したので、大量に生産することはできませんでした。

活動概要 Overview

【企画・開発・製造・販売した製品】

① レジンアクセサリ

- ・ 廃材・端材：廃プラスチック、鱗、コルク
- ・ 完成形：ヘアアクセサリ、イヤリング、ストラップ
環境問題ガチャ



② 布製品

- ・ 廃材・端材：古着
- ・ 完成形：ボタン



③ 木製品

- ・ 廃材・端材：木材、木端材
- ・ 完成形：カレンダー、箸置き



④ ターポリン製品

- ・ 廃材・端材：ターポリン
- ・ 完成形：ブックカバー



⑤ PET製品

- ・ 廃材・端材：ペットボトル
- ・ 完成形：間接照明



【出店したイベント】

① 販売

- ・ 理工展
- ・ しんじゅくこどもまつり
- ・ 紫陽祭
- ・ リサイクル千歳台での講座

【講義を行ったイベント】

- ・ 杉並区立松ノ木中学校での出張授業
- ・ リサイクル千歳台での講座

【合宿】

- ・ 春合宿（東北）（木製品の開発、観光）
- ・ 夏合宿（関東）（布製品の開発、観光）

【勉強会】

- ・製品やワークショップの環境負荷の計測方法及び改良方法について
- ・商品開発に関する法律について
- ・地域における資源回収システムの事例について
- ・商品開発の方針について

【通信販売】

- ・オンラインフリマサイト「Creema」に、レジンストラップを出品しました。

27期代の展望 Future Outlook

- ・試験の月以外毎月出展する。(商品販売やワークショップ等問わず)
- ・環境問題の改善を念頭において活動する。

1.意識すること

- ・無理せずメンバーがゆとりを持って活動できるようにする。
- ・メンバーがやりたいことをできるようにする。

2.具体的な数値を伴った目標

- ・年間：1000人、20万円
- ・一回の活動にロドメン12人

1

理工展

#早稲田祭理工キャンパスver.

📅 2023年11月4、5日 📍 早稲田大学西早稲田キャンパス 👥 12人

〔背景〕 2013～2018、2020～2021に、出店・出展していました。

〔目的〕 ・製品の販売やワークショップの開催により、廃材・端材の使用について知ってもらう。
・新製品を試験的に販売する。

〔内容〕 廃プラスチックや鮭の鱗を透明なレジンの中に封入して製作したアクセサリーや、工場でカスタネットの円盤を切り抜く際に生じた端木材を成形して製作した箸置き、ターポリンの端材を業者に加工してもらい製作したブックカバーを販売しました。

また、小さな熊のレジンオブジェと環境問題についての説明が書かれた紙のセットを、色ごとに5種類ずつ用意し、カプセルトイとして販売しました。例えば、赤のカプセルには、赤い熊とレッドリストについての解説書を封入しました。

廃プラスチックや鮭の鱗を、ピンセットを用いてレジン液とともに型に入れてもらい、スタッフがUVを照射して固めた後紐を取り付けることで、主に幼児から小学生にアクセサリーを製作してもらいました。売り上げは約70,000円であり、利益は約48,000円でした。



2 春合宿

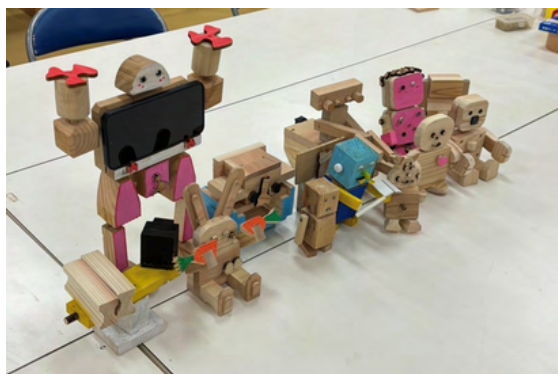
#東北 #みんなでワイワイ

📅 2024年3月17日～20日 📍 宮城県南三陸町、福島県いわき市、宮城県松島市 ほか 🧑 9名

〔背景〕2017年春から佐藤敬生様に仲介してもらい、南三陸町の企業の方々と共に活動してきました。新たに南三陸YES工房を紹介していただいたり、いわきおてんとSUNにも協力していただきました。

〔目的〕・商品開発に使用する廃材を入手する。・新製品の試作品を製作する。
・商品開発や廃材利用について勉強する。・企業と連携しコネクションを固める。

〔内容〕・南三陸YES工房で、ロボットを模した置物の試作品を製作しました。
・行場商店で鮭の鱗を調達しました。南三陸YES工房で、木材を調達しました。いわきおてんとSUNで、古着を調達しました。
・宮城県松島市を観光し親睦を深めました。



3 紫陽祭

📅 2024年6月16日 📍 みらい館 大明（豊島区池袋）
🧑 9名

〔背景〕廃校文化祭実行委員会CSFという団体が主催するお祭りに出店しました。

〔目的〕廃材・端材の使用について知ってもらう。
ワークショップの運営における新システムを試す。

〔内容〕廃プラスチックや鮭の鱗を使用したアクセサリーの販売やアクセサリー製作の子供向けワークショップを行いました。

製作してもらったアクセサリーのレジン液が固まるまでに待ち時間が発生するので、整理券制度を本格的に導入しました。



4 しんじゅくこどもまつり

📅 2024年5月25日 📍 新宿中央公園 🧑 14名

〔背景〕クリアソン新宿が主催するお祭りに出店しました。3回目の出店でした。

〔目的〕製品の販売やワークショップの開催により、廃材端材の使用について多くの方に知ってもらう。

ワークショップの運営における新システムを試す。

〔内容〕紫陽祭と同様に、物販とワークショップを行い、整理券制度を試験的に導入しました。また、値段設定や、ワークショップで製作するアクセサリーをストラップに統一するかなど、出店の度に試行錯誤して調整していきました。



5

リサイクル千歳台での講義

#教育 #ワークショップ

2023年12月3日 リサイクル千歳台 6名

〔背景〕リサイクル千歳台という施設で、親子十数組を対象にワークショップを開催しました。3回目の開催でした。

〔目的〕・ワークショップの開催により、廃材・端材の使用について多くの方に知ってもらう。

〔内容〕・レジンアクセサリーとペットボトルランプの製作のワークショップを開催しました。
・ワークショップの初めに、3Rに関する講義を行いました。



6

杉並区立松ノ木中学校での出張授業

2023年10月27日 杉並区立松ノ木中学校 2名

〔背景〕NPO法人杉並環境ネットワークの方を対象にしました。

〔目的〕生徒に近い年代の人が環境問題に自主的に取り組んでいる姿を見せることで、生徒が環境問題に自主的に取り組むきっかけを提供する。

〔内容〕まず、Re-Coverが取り組んでいる環境問題とその現状、問題意識、アプローチを話しました。次に、ロータリーにゴミが散乱していた際に何ができるかを、個人で考えて発表してもらった後、班ごとに最も良い意見の一つを選んで発表してもらいました。話し合いの際には、個人の意見を付箋に書いてもらうなどの工夫を行い、効果的なアクティブラーニングを目指しました。

7

環境負荷勉強会

2024年4月17日 伊坪研究室 7名

〔背景〕Re-Coverの活動理念は、あくまで廃材・端材の使用への理解や普及を促すことです。しかし、自ら体現すると説得力が増し教育上効果的であると推測されるので、可能ならばRe-Coverが開発する製品自体を環境に良いものにしたいという結論に至りました。そのため、一度製品の環境への影響を測定する必要が生じました。

〔目的〕・Re-Coverが開発する製品が環境に与える影響を評価する方法を教わる。

・Re-Coverが開発する製品が環境に与える影響を減らす方法を教わる。

〔内容〕環境負荷の計測方法及び改良方法を、伊坪徳宏教授から教わりました。材料を変えると環境負荷がどのように変わるか調べるとよいと分かりました。



「環境×早稲田」 えこのわぐま

活動理念 Philosophy

「環境×早稲田」をテーマに、早稲田大学やその地域のイベントで、他の様々な団体の方々と協力しながら、環境に関する活動を行い、そのイベントを支える。

26期代の方針 Policy

- ・ゴミ分別指導を中心にゴミ問題に貢献する

活動概要 Overview

今年度は稲門祭、早稲田祭のエコステに貢献できました。特に稲門祭に関しては去年よりも多い18人に協力してもらうことができ、企画を

越えてロード全体でゴミ問題に寄与することができたのは良かったです。しかし、新しい活動をするにはできなかった点に関しては反省点がありました。

27期代の展望 Future Outlook

えこのわぐまの活動と渉外局の活動に重複している箇所があること、活動が形骸化していること、企画構成員が少ないことなどを踏まえ、27期代からは、渉外局にえこのわぐまが行ってきた早稲田のイベントの参加に関するポストを設置し、えこのわぐまの活動を引き継ぐ形になります。今後は渉外局を通じて、稲門会や運スタとロードを繋ぎ、引き続きイベントにおける環境活動に寄与していきます。

1

稲門祭

#祭り #ゴミ分別

📅 2024年10月20日 📍 早稲田大学 👥 18名

〔背景〕稲門会、早稲田祭運営スタッフの方々と協力しました。

〔目的〕環境ロードリゲスを稲門会のOB・OGの方々にアピールするとともに、ゴミ分別指導を通して来場者の環境意識を高める。

〔内容〕2月から毎月1回、ロードが所属するキャンパス・庭園班の会議に出席しました。また、稲門祭実行委員会の全体会にも2回出席し、壇上で挨拶を行いました。加えて、稲門会、奨学生、早稲田祭運営スタッフの方々との懇親会にも出席しました。前日準備では出店者のテント準備に参加しました。そして当日は庭園のエコステーションと、ごみ集積所で活動に参加しました。その後の祝賀会でもロードを紹介することができ、ロード内の交流に加え、外部とも交流できた良い機会でした。



2

早稲田祭

#早稲田大学

📅 2024年11月4日・11月5日 📍 早稲田大学

〔目的〕早稲田祭という最大のイベントに、環境問題の側面から関与し、参加者の環境意識を高めるとともに、自分たちも楽しむ。

〔内容〕運スタの方々と交流会を行い、各々の活動の紹介と連携について話し合いました。そこでエコステーションに加え、運スタが行うペットボトルキャップを活用したエコ企画に参加する事になりました。残念ながら、エコ企画自体は雨天により中止になってしまいましたが、来年以降運スタ主導のエコ企画にロードとして参加できるよう、提携していきたいと思ひます。



新歓期の環境美化に
貢献しています！





「環境×キャリア」 えこねくすと

活動理念 Philosophy

環境に携わるキャリアを歩んでいる方の取材やリサーチを行い、環境系のキャリアを目指す学生に向けて、有益な情報を発信する。

26期代の方針 Policy

- ・企画としての基盤を固める

活動概要 Overview

25期代から「SNS運用」と「取材」、「記事作成」の三つの軸で活動してきました。本年度もこの三つの軸を基本に、「取材」は日程の都合の良いメンバーが任意で参加するとし、新たにメンバーの得意不得意に応じて「SNS運用班」と「記事作成班」に分かれて活動していました。Instagramで24件の投稿、6名への取材、noteに5つの記事を公開することができました。また、企画発足から二年目にして、「名古屋合宿」を実現することができました。

27期代の展望 Future Outlook

今後の展望は、26期の先輩方が残してくださったえこねくすとの既存のシステムを生かしながら新しい体制を確立することです。

26期代えこねくすとではSNS班と記事班に分かれて活動していましたが、27期代からは全員で記事とSNSの発信に取り組み、これらの両立と円滑な発信を目指します。そして現在、我々は様々な環境系のキャリアを歩む方々の情報を発信するべくSNSと記事に重きを置いています。今後はこれに加えて、キャリア関連のイベントなどに参加し、新たな情報発信の方法を模索したいと思います。えこねくすとの全員で新しい挑戦をし続けて、お互いを高めあえる企画を作り上げます。

1

名古屋合宿&木藤さんへの取材

#取材 #環境ロドリゲス4期

📅 2024年9月14～16日 📍 名古屋市内 👥 13名

〔背景〕ロドリゲス4期の木藤さんに昨年度（25期代）の総会でお会いし、4月ごろに取材の依頼をしたところ快くお受け下さったため、取材をするにあたって木藤さんがお勤めされている愛知県へ行くことになりました。

〔目的〕木藤さんへの取材とメンバー間の交流。

〔内容〕えこねくすと初の企画内合宿では、木藤さんが名古屋市内を中心に観光名所や取材当日の観光プランなどを提案してくださり、スムーズに合宿の準備を進めることができました。

宿泊先は名古屋郊外の戸建てを一軒貸し切りしました。たこ焼きパーティーを行ったり、夜通しゲームをしてメンバー同士の親睦を深めることができました。



本合宿は木藤さんへの取材がメインでしたが、取材前には木藤さんと一緒に熱田神宮へ参拝に行き、名古屋名物のひつまぶしをご馳走していただき、さらに株式会社トヨタ自動車が運営する産業技術記念館を案内していただくなど、名古屋やトヨタの歴史に触れる貴重な機会をいただきました。取材では、現在のキャリアについてだけでなく、環境ロドリゲスでの活動から学んだことや就活の進め方など多岐にわたるお話を聞けて有意義な時間を過ごせました。



2

オフラインキャリアイベント

#キャリア #MIRAI

2023年12月8日 zoom 4名（他団体を含めると14名）

〔目的〕 えこねくすとの「キャリア」をフォーカスしたイベントを試験的に開催する。

〔内容〕 リアステージMARIという、大学生に向けてキャリア講義などのオフラインイベントを行う企業に賛同していただき、「環境」×「キャリア」の在り方について考えるイベントを開催しました。また、SVNという防災系のボランティアサークルの方々も招き、ボランティアを大学生のうちから行う意義などについても一緒に考えました。



3

地球感謝祭 ロド×Rulie コラボ企画

#Rulie #コスメ

📅 2024年9月23日 📍 早稲田大学早稲田キャンパス 👥 7名

〔目的〕 以前取材させていただいたRulie様との親交をより深め、今後のオフラインイベント開催への選択肢を広げる。

〔内容〕 えこねくすとで以前取材した際に作成した記事をもとに、えこねくすと（ロドリゲス）がRulie代表の児玉さんにインタビューしている様子を体験しながら、Rulieの創設背景やクリーンビューティーについてを来場者に楽しく学んでいただくという没入型の展示を行いました。この展示の最後にRulieの手掛けるコスメのタッチアップなどの無料体験も行い、従来のコスメとの違いやオーガニックコスメとの違いなども合わせて体感できるようにしました。そのため多くの方が来場してくださり、環境ロドリゲスやRulieを多くの方に知ってもらう機会になりました。



4 大和田教授への取材

#環境教育

📅 2023年12月13日 📍 大和田研究室 👥 5名

〔目的〕 将来、環境に携わるキャリアを歩みたい学生に向けて公開する記事の作成にあたり、取材を行う。

〔内容〕 環境ロドリゲスの前顧問であった大和田先生が2023年度末に引退されるとのことで取材させていただくことになりました。大和田先生は将来についての考え方や最高の教育者としての在り方などの長年多くの学生の成長を見届けてきた教授だからこそ気づいたことを教えていただきました。



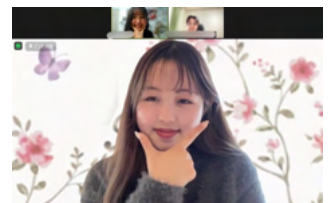
5 児玉さんへの取材

#学生起業家

📅 2024年2月4日 📍 zoom 👥 2名

〔目的〕 左記同様

〔内容〕 小学生の時からコスメが好きであった児玉さんは、自分の好きなコスメが環境を犠牲にしたうえで成り立っていることに気づき、高校生の時に少しでもそれを解決したいという理由でビジネスコンテストに応募し、クリーンビューティーコスメブランドを立ち上げたそうです。社会問題に向き合いたいと思い、それを行動に移すことができる児玉さんの挑戦力を自分も見習いたいと思いました。



6

伊坪教授への取材&勉強会

#LCA #環境負荷削減



2024年4月17日



西早稲田キャンパス伊坪研究室



7名

〔目的〕 上記同様

〔内容〕 Re-Coverが作っている商品の環境負荷の削減方法やLCAの概念をどう商品に適用すればよいかの相談を兼ねた勉強会に伴い、えこねくすとからは取材をさせていただくことになりました。今や環境についての取り組みは世界全体で重要とされていますが、まだ環境に詳しい学生は多くはいないそうです。だからこそ、環境分野の専門性を高め、将来環境問題解決に少しでも貢献できる人材になりたいと改めて思いました。



7 才丸さんへの取材

#SDG s ライフアドバイザー



2024年6月10日



zoom



4名

〔目的〕 上記同様

〔内容〕 才丸さんは、茨城を拠点にヨガ講師を行いながらSDGsライフアドバイザーとして講師活動やエシカルトークを行っている方です。今までは環境に対して学術的にアプローチするという考えに偏っていましたが、才丸さんの活動を聞いてそれだけが環境系のキャリアではないということに気づかされました。環境と生活、健康の調和を目指してビーチクリーンをした後に公園でヨガを行ったりもしているようで、「環境問題」という敷居の高いものではなく、身近なヨガから環境問題への興味関心を引き出していると聞き、目から鱗が落ちる思いでした。



8 大城さんへの取材

#学生起業家



2024年7月26日



学生会館E842



2名

〔目的〕 上記同様

〔内容〕 大城さんは、デノラペルメレック株式会社で法務室長を務める方です。環境に配慮した電解槽の開発・生産を行っている会社ですが、これらの事業が成り立っているのは大城さんのような法務を担う方がいるからだに気づかされました。技術や商品を開発して終わりではなく、これらの技術の保護を行わなければ会社は成り立ちません。そのため、一見目立たない職種かもしれませんが、法務は会社の財産を守る重要な役割なのだと学びました。





「環境×プラスチック」 Precious Plastic Waseda

活動理念 Philosophy

全ての人にプラスチック再生体験で“楽しい環境活動”を。

発足の理由 Policy

代表・創設者の土田が高校2年間Precious Plasticに準拠した団体にてボランティアをしていた経験から再生プラスチック活動の“楽しさ”に可能性を感じ大学でも活動を開こうとしたことが始まり。現代の環境活動はネガティブなことが多いために一步を踏み出すことに躊躇っている人は多いです。Precious Plasticの再生プラスチック活動はこのような「環境活動＝楽しくない」を体験から払拭していくことを目指します。

活動概要 Overview

日常的に捨てられている「プラスチック」を再成形する活動を行います。Precious Plasticがオープンソースとして公開しているプラスチックを溶かし射出する機械を用います。サークルや早稲田大学 学生会館などから回収したプラスチックを「櫛」や「アクセサリ」など価値あるものへと生まれ変わらせます。

27期代の展望 Future Outlook

・活動基盤の構築

今年度発足したため、メンバーや機材、教育標本などの活動基盤の構築が欠かせません。特に、ワークショップでお客さんに“楽しい環境教育”をどう伝えていくかということに集中し試行錯誤を行っていきます。

・イベント出展、出張授業

早稲田祭などの早稲田関連のイベントには積極的に出展を行います。幼児～大人と幅広い年齢層の方に体験できるよう多くのコネクションを作り月1回の出展を目指します。

・作品作り

現在は「櫛」のみ作成できるが、今後はアクセサリや小物置きなどの作品作りにも挑戦します。

・他分野との連携

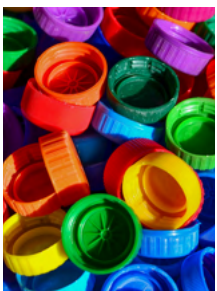
美容院で不要となったカラーチューブを私たちの活動で「櫛」へと生まれ変わらせ循環させるような他分野とのコラボを実現させます。

・環境負荷の定量化

LCA（ライフサイクルアセスメント）を活用し“環境に良い”再生プラスチック活動を行います。

活動 Activity

廃プラスチックを粉砕機で粉砕し、射出形成機で成形を行う。



Precious Plasticとは

What is Precious Plastic?

オランダで生まれ、誰でも簡単に作れるリサイクルマシンの設計図や方法を公開しているオープンソースコミュニティです。

現在は世界各国で約11万人もの人々がこのプロジェクトに参加しています。



1

早稲田祭出展

#初ワークショップ出展 #櫛



2024年11月3日



早稲田大学 早稲田キャンパス 11号館

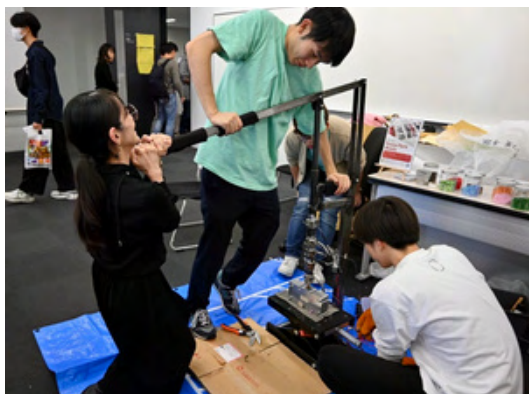


6人

〔背景〕 早稲田祭2024に、Re-Coverと共同でワークショップ出展していました。

〔目的〕 プラスチックの再生体験を行ってもらう。

〔内容〕 早稲田祭では初めてのワークショップ体験出展を実施しました。実際に、射出形成機や櫛の金型を用意し来場者の方々に廃プラスチックを再生する体験を行っていただきました。初めてのワークショップということでかなりの心配がありましたが大きなトラブルはなく合計50名ほどの方に体験いただけて申し分ない結果となりました。しかし、回転率の悪さやメンバーの少なさなど多くの課題が見えてきました。



2

理工展販売

#商品販売



2024年11月2日



西早稲田キャンパス

〔目的〕 本企画の広報、櫛の販売

〔内容〕 早稲田祭同様、Re-Coverと共同で理工展の出展を行いました。理工展では販売のみを行い約10名ほどに購入していただきました。



3

NEOアワード

#コンテスト #決勝



2024年8月17日



有楽町マルイ

〔目的〕 本企画の方針ブラッシュアップ

〔内容〕 アースデイ東京ユース×有楽町マルイコラボ「NEOアワード」の最終審査に出場しました。受賞はできませんでしたが良い機会になりました。



06 | 全体活動報告

冬

2/8 第一回ロドゼミ



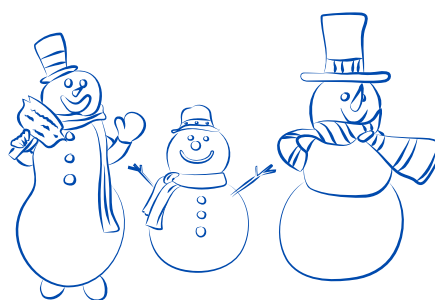
3/24 稲魂賞授賞式



2/13～2/15 冬合宿



全体で那須塩原と日光へ合宿にいきました。
サファリパークに中禅寺湖、日光東照宮とワールドスクエア、
温泉にかまくら祭り、牧場と盛りだくさん。
夜はエアビーで料理をしたりボードゲームをしたりと、メンバーの仲を深める
とても楽しいイベントになりました。



春

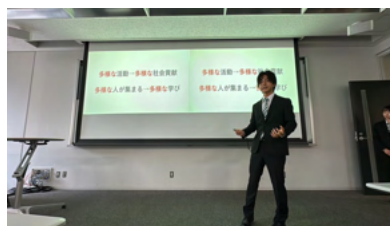
4/1～4/4 新歓ビラ配り



環境ロドリゲスのビラを配るとともに、散らばった他サークルのビラを回収しました。

70名の新入生が入会してくれました。

4/3 WAVOCボランティアプレゼンコンテスト



ロドの強みについてWAVOCのコンテストでプレゼンしました。

4/21 新歓BBQ



全体の新歓イベントとして、現役生と新歓生合わせて約40名ほどでBBQを行いました。

5/6 公開ロドゼミ



5/12 高尾山ハイキング



全体の新歓企画として、現役生と新歓生合計22名で高尾山にハイキングに行きました。

6/2 早慶戦



企画間交流会として優勝がかかった早慶戦をメンバーで観戦に行きました。

6/16 プレゼンコンテスト



6/29～6/30 新歓合宿@河口湖



一泊二日同じチームでクイズ大会やオリエンテーリング、体育祭を行い、総合ポイントを競う形で新歓合宿を行いました。今までにない形で大盛り上がりのイベントとなりました。

夏

9/5～9/7 夏合宿



サークル全体で熱海と伊豆へ合宿に行ってきました。
三島スカイウォークやiZoo, 川奈の海岸など、冬同様盛りだくさんの内容であっという間な二泊三日でした。

9/23 地球感謝祭



六つの班に分かれて、一年生が主体となって出展しました。
それぞれが個性のある楽しい出展となり、
多くの子どもたちが遊びにきてくれました。

秋

10/20 稲門祭



11/24 勇退会



11/2～11/3 早稲田祭



昨年に引き続き早稲田祭に出店いたしました。今年にはさつまいも・じゃがいも・れんこんを使用した野菜チップスの販売と、地産地消・野菜による二酸化炭素排出量減少について・コンポストについての啓発ポスターの制作を行いました。当日は生憎の雨と立地の悪さもありましたが、行列の絶えない出店をすることができました。

07 | 編集者一覧

・ 主担当者 ・

全体編集：藤谷光怜（27期）

全体指揮：井上喜久海（27期）

・ 各企画編集者 ・



やまなび：堺瑠壺（27期）



ecoSMILE：伊藤優真（27期）



うみさんぼ：藤谷光怜（27期）



REC：佐藤翼（27期）



Re-Cover：蒔田昂征（26期）



エコネクすと：鈴木愛枝（26期）



えこのわぐま：井上喜久海（27期）



Precious Plastic Waseda：土田拓己
（28期）

DODO vol.39

2024年12月9日 初版第一刷発行

著 者 DODO vol.39製作委員会

発行者 環境ロドリゲス

印刷所 ラクスル株式会社
